【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
チーム医療演習		必修	1	4	後期（集中）
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
小沢　健一　他	C305	k-ozawa		授業終了後、または Teams で質問受付	

授業の目的・概要	本学における教養教育から専門教育に至る総仕上げとして、理学療法、作業療法、福祉心理、看護の 4 分野の学生が合同で参加する、模擬ケースカンファレンスの演習形式の授業を行う。それぞれの学科で培ってきた見識を最大限に活かし、各事例への適切な対応について、少人数編成のグループで調べてまとめ、発表することを通して、将来の専門職・社会人としての自覚を深める。さらに学科ごとの専門分野の相違を体験的に学び、他職種連携のあり方とその重要性、チーム医療の要点について学びを得る。
授業形式・方法	☑対面授業　☑講義　☑演習　☑PBL　☑反転授業　☑ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ・ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ □遠隔授業(双方向型)　□実習　□実技　☑ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ　☑ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ　☑実習・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ □遠隔授業(自主学習)　□その他　（　　）
学習上の助言	チーム医療演習は、「健康」を冠する大学として本学の特色を活かした全学部参加型の演習であり、これまでの学習の総まとめとして位置付けられる。問題解決型学習スタイルを採用して積極的な受講姿勢を求めており、チームをリードする、チームをまとめる等の役割を担うような姿勢を望む。
教科書	特になし
参考書	1.上田敏：ICF(国際生活機能分類)の理解と活用、きょうされん、2005. 2.野中猛：図説ケアチーム、中央法規出版、2007. 3.田村由美：新しいチーム医療、看護の科学社、2012.
外部教材	特になし

	学生が達成すべき行動目標	関連卒業認定・学位授与方針
①	各専門職の役割を理解し、多職種連携の意義を説明できる。	HSU (4)
②	多職種協働の中で、自らの職種が担うべき役割について説明できる。	HSU (4)
③	チーム構成員と協働できるコミュニケーション能力を身につける	HSU (4)、(5)
④	チームで取り組む事例の過程を理解し、問題点を説明できる。	HSU (2)、(4)
⑤	提示された事例について、多職種連携の視点で医療、福祉、心理、地域社会などさまざまな側面から分析し、考察できる。	HSU (2)、(3)、(4)
⑥	患者や家族の意思や希望をふまえて、チームで目指すべき方向を検討できる。	HSU (3)、(4)

授　業　計　画

回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間（時間）	
1	オリエンテーション チーム医療とは(チーム医療の必要性とその意義)／事例提示	講義・演習	チーム医療の概要について復習する	4
2	グループワーク　事例検討 チームワークの演習／各職種の役割理解／事例概要の把握	演習・PBL	チームワークの質を体験して各職種の役割も理解する。	4
3	グループワーク　事例検討 問題提示型 PBL：問題構造の理解と分析　①	PBL	症例に関する情報収集を行う	4
4	グループワーク　事例検討 問題提示型 PBL：問題構造の理解と分析　②	PBL	症例に関する論点整理を行う	4
5	グループワーク　事例検討／発表準備 問題提示型 PBL：各職種における介入支援の実際　①	PBL	症例の介入支援に関する情報収集を行い、発表につなげる。	4
6	グループワーク　事例検討／発表準備 問題提示型 PBL：各職種における介入支援の実際　②	PBL	症例の介入支援に関する論点整理を行い、発表につなげる。	4
7	グループワーク　事例検討／発表 問題提示型 PBL：チーム医療における連携と協働　①	PBL	発表会の準備を行う。 活動評価をまとめる。	3
8	グループワーク　事例検討／発表 問題提示型 PBL：チーム医療における連携と協働　②	講義・演習	チーム医療の概要について復習する	3
試	成果発表			

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

達成度評価							
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
		0	0	80	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	10	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	0	10	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	5	15
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	20	0	5	25
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	20	0	0	20

評価のポイント				フィードバックの方法
評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	
試験	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	✓	PBL 演習にてまとめた事例について、ポスター発表を行い、評価を受ける。発表内容について、学生間及び教員評価により採点する。	コメントを付して返却する
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		
ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	✓	PBL 授業の全体を通じて、自己（自分及びグループに対する評価と記録）の取り組みを評価した活動評価表の提出を求める。 また、グループメンバーからの他者評価を受けることも含まれる。	コメントを付して返却する。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤			
	⑥			

備　考	
他担当教員	粕山 達也、坂本 祐太、浅野 克俊、高田 毅、渡邊 隆文、佐野 宏一朗、吉岡 睦世
教員の実務経験	各教員は医療、福祉、心理、看護等の現場で実践的な職務経験を経ている。
実践的授業の内容	看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師等の国家資格を有した各専門分野の教員がファシリテーター役となり、専門分野の立場から臨床事例へ幅広い見識にて助言を行う。
その他	本科目はグループ活動への積極的参加が前提であり、原則として全ての回に出席すること。なお、本学の規程に基づき演習系授業に該当するため、出席回数 5 分の 4 以上が単位取得には必要となる。また、全 8 回が登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。